

報告もない。議会の役割をどのように考えているか。

答 行政側としては、確定したことを伝え、協議したいという立場があり、中途半端な状態で議論を持つていけない。そのような議会への対応については、反省している。

問 庁舎に関する事業は、昭和62年より続いてきた継続事業である。なぜ平成19年から22年にかけて新たな基本構想を作成するようなことになったのか。

答 平成18年に再度耐震診断をし、耐震補強工事をする予定であったが、コンクリートコアの状態等を踏まえると、この場所では耐震工事は望ましくないと判断がなされ断念した。そして、22年12月、新庁舎の建設検討委員会により、基本として現在の場所において建て替えるという基本構想が策定された。

問 移転先の候補地である八木駅南の1,100坪の市有地については、過去に地下駐車場の整備事業、宿泊施設を基本とした市有地活用事業等が計画されたが、実施には至っていない。それらにかかった経費はいくらか。

答 平成13年の近鉄八木駅前南整備事業に関して、PFI事業化の調査に435万7,500円。平成15年には、近鉄八木駅南地下駐車場等整備事業PFIアドバイザリー業務において2,640万7,500円。平成20年の近鉄八木駅前市有地活用検討業務において669万9,000円。そして、平成25年、八木駅前南市有地活用事業化検討業務に398万8,950円。八木駅前南市有地活用事業アドバイザリー業務に3,150万円。合計7,295万2,950円。用地取得費用としては、3,794m²、47億5,054万4,516円である。

問 基本構想を再度変更するならば、現在の庁舎の建つ土地についての利用法も1,100坪の活用と同時に考えていくべきではないか。

答 庁舎南側の土地がネックになってきたこともあり、まずは1,100坪の土地の活用法について進めることとなった。これからのアドバイザリー業務の中で、しっかり議論をして、また議会の意見もいただきたい。

問 PFI事業ということでは、民間の意見を聞くというのとは分かれるが、議会は市民の代表であり、軽視はできないのではないか。理事者側と議会がお互いに切磋琢磨し、よりよい新庁舎に向けて議論していかなければならないのでは。

答 本市において、国道24号線と165号線が交わり、役所にも近い八木駅前というのが、都市軸の一番核になる場所である。この立地条件を再認識し、議会とも議論を重ねて、一つ一つ積み上げていき、着実に前進していきたい。

都市計画道路



市役所本庁舎

問 都市計画道路の整備率は、県決定路線で整備率49%、

そして市決定路線で59%となっている。

問 計画決定後、まったく着手していない路線は何路線あるか。

答 約30年未着手のものは、10路線ある。

問 見直しについての考えは、全国的にも人口減少や高齢化等により将来交通量が下方修正されており、奈良県においても、平成42年には約2割程度交通量が減っていると推計が公表されている。平成22年度には、奈良県が「奈良県都市計画道路の見直しガイドライン」を策定しており、本市もそれに基づいた見直し業務に、来年度から取りかかっていく。

問 30年前のまちと今とは全然違う。状況はその都度変わっていく。計画変更についてはスピードが求められると思うが、来年度から見直し作業を開始して、何年で終わるのか。

答 平成26年度より3カ年で業務に取り組んでいく。これについては、当然見直し案を作成し、パブリックコメント等の手続きも踏み、奈良県とも協議して進めていく。

行政視察受入

(平成25年7月25日以降)

視察日	市町村名	視察件名	人数
10月2日	島根県出雲市議会(環境経済常任委員会)	・歴史・伝統・文化を題材とした観光施策の推進について	9
10月23日	東京都東大和市議会(建設環境委員会)	・近接する観光地周遊バスとの乗継などコミュニティバスの利用の活性化について	9
10月30日	栃木県小山市議会(自民未来塾)	・檀原市昆虫館について	4
11月7日	山形県山形市議会(自由民主党新翔会・改革会議)	・世界遺産登録推進啓発事業について	10